

「創作かるたプロジェクト」ワークショップ報告書

- フロムジャパンでは、2011年以降、日本人インターンを英国の学校に派遣し、現地の子どもたちとオリジナルかるたを創作するプロジェクトを進めています。
- この活動をオーストラリアでも広げる目的で、2015年4月17日、オーストラリア・メルボルンで開催されたビクトリア州日本語教師協会年次会議に参加しました。
- その際、日本語教員9名を対象に「創作かるたプロジェクト」を紹介するワークショップを実施する貴重な機会を得ました。本稿は、その内容と成果を報告するものです。

要旨：

- 「創作かるたプロジェクト」が、いろはかるたの一種である郷土かるた（上毛かるた）を手本に考案されたこと、英国に続き豪州でも開始されたことを紹介。
- ある学校の生徒が作った題材（絵札）を選び、それに合った読句を英語と日本語で作成。
- かるたのルールを解説した後、完成した札を使い、英語、日本語、日英混合の順で句を読みあげ、3試合実施。
- アンケートには「教室でも活用」したいという声も寄せられ、日本語教育での創作かるた活動の意義が発見できた会となったようです。

ワークショップ手順

所要時間	手順	内容	教材など
導入 (15分)	1. かるたの種類を学ぶ	「歌かるた」「いろはかるた」 「郷土かるた」「上毛かるた」	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント ・映像
	2. プロジェクトを学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトの内容 ・英国での実績を映像で紹介 ・オーストラリアでも開始 	
創作活動 (23分)	3. 題材の決定	<ul style="list-style-type: none"> ・日本とオーストラリアの題材確認 ・担当する題材の決定 	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイント ・題材一覧表 ・ワークシート ・かるた台紙（読札用）
	4. 読み句準備	<ul style="list-style-type: none"> ・キーワード書き出し ・担当する文字の発表 	
	5. 読み札作成	<ul style="list-style-type: none"> ・英語、次に日本語の読み句作成 ・台紙に句を書いて読札完成（9枚） 	
かるた試合 (10分)	6. かるた取り表彰	<ul style="list-style-type: none"> ・ルール解説 ・第1試合：英語の読み句 ・第2試合：日本語の読み句 ・第3試合：日英混合の読み句 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵札（9枚。Mortlake製） ・読札9枚（今回作成） ・賞品：柿の種
評価（12分）	7. 振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート用紙記入 	<ul style="list-style-type: none"> ・Feedback Form

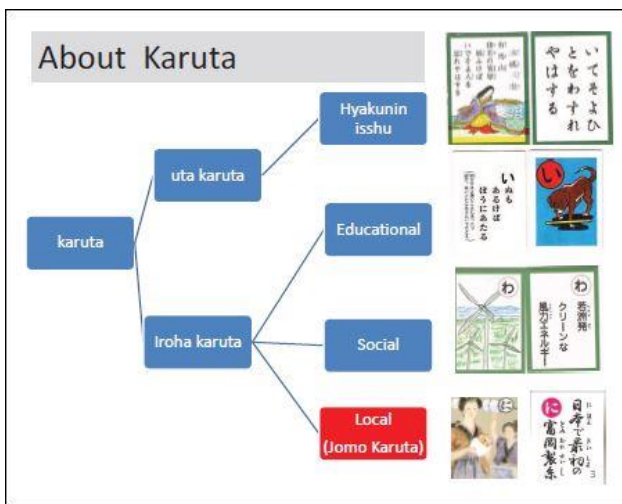
ワークショップの内容

■第1部：導入

まず、参加者にかかるた取りの経験や、知っているかるたの種類を尋ねた上で、パワーポイントを見せながら、以下のように説明していきます。

ステップ1：かるたの種類を学ぶ

- かるたには、「歌かるた」と「いろはかるた」の2種類があります。
- 地元を題材にした「郷土かるた」はいろはかるたの一つで、日本各地に千種類以上あり、毎年新しい郷土かるたが創作されています。
- 最も有名な郷土かるたは、「上毛かるた」です。1947年、子どもたちの郷土教育を目的に群馬県で制作され、60年以上にわたり「上毛かるた大会」が毎年開催されています。



ステップ2：プロジェクトを学ぶ

- 「創作かるたプロジェクト」は、この上毛かるたをモデルに考案されました。世界各地の学校に1) かるたコーディネーターを派遣し2) オリジナルかるた制作を支援、3) 地域かるた大会を開催する、活動です。
- 英国プロジェクトは2011年に始まり、1000名を超える子どもたちにかかるたを紹介し、25セットのかるた制作を支援。2013年と2015年の2回、かるた大会を開催しました。

- 2015年3月ビクトリア州のMortlake Collegeにオーストラリア初のかかるたコーディネーターを派遣し、日豪交流をテーマにしたかるたを3セット制作しました。2020年までにオーストラリア初のかかるた大会開催を目指しています。

■第2部：創作活動

かるたには①題材、②絵札、③読み句が必要ですが、時間が限られたため、Mortlake Collegeで作られたかるたの絵札（題材）に、新しい読み句を付けるという方法で創作活動を体験してもらいました。具体的には、ワークシートに沿って、以下のような手順で進めました。

ステップ3：題材の決定

- まず、Mortlake College かるたで使われた、26の題材から、参加者が題材を一つずつ選択します。
- オーストラリアの題材が5つ（バーベキュー・クリケット・コアラ・エアーズロック・ベジマイト）、日本の題材が4つ（書道・ラーメン・天ぷら・雪合戦）選ばれました。




ステップ4：読み句準備

- 次に、参加者はワークシートを使い、題材に関連するキーワードを、英語と日本語で、書き出します。
- その後、担当する題材（絵札）に振られている頭文字(アルファベット)が伝えられます。

Worksheet: Creative Karuta

Name: _____



■ Step 1: Write your card topic. Uluru

■ Step 2: Write some key words about your topic. (This will help you write a clue easily) 600 million years old big red rock Sacred site Ancient in middle of Australia Aboriginal

■ Step 3: Write your letter o 863m Red rock. あかい 大きい

■ Step 4: Write a clue in English to begin with your letter

Originally (600 million years ago) this big red rock in the middle of Australia was at the bottom of the sea.

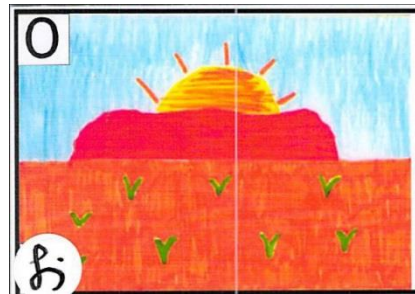
■ Step 5: Write a clue in Japanese to begin with any letter

大きいあかいいわ オーストラリアのまん中にある まぐレ海の下にある

■ Step 6: Write your both clues on a separate Karuta paper

大きい あかい いわ オーストラリアのまん中にある.

- 9枚の絵札に、該当する日本語の読み句の頭文字を記入し、絵札を完成させます。



■ 第3部：かるた試合

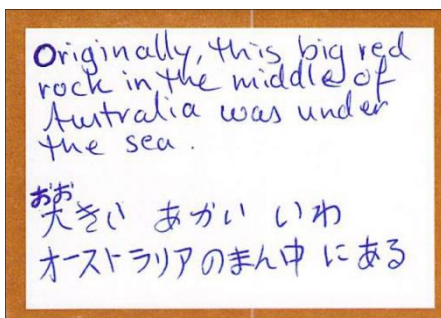
完成した読み札と絵札を使って、かるた大会を開催しました。

ステップ6：試合

- かるた取りのルールを解説し、絵札をテーブルに散らして準備です。プレゼンターが読み手兼審判で、参加者全員がプレーヤーです。
- 第1試合は、英語の読み句を9つ読み上げ、第2試合は日本語の読み句を、最後は、日本語と英語を混ぜた9句を読み上げた。
- 各試合の勝者に、賞品として「柿のたね」を、計3ヶプレゼントしました。

ステップ5：読み札作成

- その文字で始まる、英語の読み句を作ります。その後、自由に日本語の読み句も作ります。
- 句が出来上がれば、かるた専用台紙に、英語と日本語の読み句を記入します。参加者9名のため、9枚の読み札が完成です。



ステップ7：評価

- 最後にアンケート用紙に記入して終了です。

評価/成果

- 7名からアンケートが提出され、いずれも5段階評価で最高の「5」と評価されました。
- 「楽しい」「新しい」「クリエイティブ」「双方向的」などのコメントがあり、学び多い体験となったことがわかります。
- 「教室でも活用」「生徒と一緒に取り組んでみたい」というコメントがあり、創作かるた活動の教育ツールとしての有効性が理解されました。
- 自由に題材が扱える「いろはかるた」について知ったことで、かるたが「知識を学ぶ」教育ツールになるとの理解が得られたようです。

参加者から寄せられた声 (アンケートより)

- Fun, quick, interactive. I didn't know that Karuta was a way of importing general knowledge. I will definitely try and make the some cards with my students. (楽しく、スピーディで、双方向的です。かるたが一般的な知識を得るのに有効な方法だとは知りませんでした。ぜひ生徒と一緒にかるたづくりに取り組んでみたいと思います。)
- とても楽しかった。これから、生徒とやってみよう!
- いいアイデア。授業で使える。

- Very enjoyable program. I'll do this my children, maybe at the end of the year. Thank you very much for the great program. (とても楽しい活動です。たぶん、年度末に生徒とやってみようと思います。すばらしい体験をありがとうございました。)
- A new teaching idea. Good to have a hands-on lesson. I enjoyed it. (教え方の新しいアイデアですね。体験型のワークショップはいい方法だと思います。私も楽しむことができました。)
- It was very creative, and fun! (とてもクリエイティブで面白かったです。)
- It was fun and practical activity to learn and use in classroom. (楽しく、実践を通じて学べました。教室でも活用できます。)

※ () 内は事務局が追加した訳文です。

■報告書の後に、補足資料を添付しました。完成した9枚の読み札や、当日使用したワークシートをご覧ください。

(2015年4月27日フロムジャパン景谷作成)



報告書に関する問い合わせ：

フロムジャパン

188-0014

東京都西東京市芝久保町 3-4-45

TEL: 042-439-5445

Email: info@fromjapan21.com

http://www.fromjapan21.com